

クナシリ・メナシの戦いについて(13)

はじめに

今回も、新井田孫三郎が記した「寛政蝦夷乱取調日記」から、同じく寛政元年(1789)9月4日から5日にかけての記録で、「吉岡村」に総勢が揃い、城下を行進し、首級箱を奉行所に引き渡し、城内に入るまでを見て行きます。

9月4日天気快晴

午後4時ごろ町奉行から書状が届きました。

それには「3日までに残らず「吉岡村」に到着したことは承知した。早速披露あるので、明5日に御城下に入る道を仰せてあります。もつとも天氣次第でそちらを出立なさってください。「町通り筋」については、別紙でお分かりの通り」と承知ください。

御城内に入られる時は、侍・医師・足軽まで「御白洲御門」内に入るよう仰せられていてますが、夷どもに

9月5日天気宜

藤倉右源太が、内々の仰せ付けの事があつたので来られました。それは、「御目見得」に上られる「夷とも」の「着類」が宜しくないのと仰せられています。城下へは、正午頃に宿に入られ、正午を少々遅くなる分については差支えありません。

申し合わせの箱(首級を入れる箱)については、本日大澤村まで差遣わすので、「人足共」に詰め為し置くことを心得てください」という内容が記されています。

そして、道順が「別紙にて」「道筋」として示されており、「泊り川町・枝ヶ崎町・大松前町・河原町・町御役所より又候河原町・小松前町・三の御丸」とあります。

行列については、「先拂」を先頭に三隊に分かれ、「先鋒」は「松前平角」ら3名で、それぞれ従者として「若黨(若い侍の事で24名を従える)」・「草履(せんぱう)」4名を従える)」・「足檻(すくひら)」とあります。

總勢が「御目見得」のため、蝦夷も残らず大澤村を出立しました。

昼夜(正午)時過ぎて、三の御丸大手門前で、新井田孫三郎は奉行氏家新兵衛(べゑ)に「此度、大下夷(おおしもえ)にて徒党の夷共打取候首級三十七、持参候」と申し述べ、直ちに引き渡しが行われました。

そして、河原町を出て小松前を通り、「三の御丸大手門」に入り、「表御門」前に差し掛かると「右御門」が(本丸御殿の)玄関前に差し掛かり、「夷共は舗石兩側え相詰めさせ」、「おさつへ」の2人の長人は「御玄関前え別座す」とあり、「其外しまり方、医師、足軽、通詞」らは、残らず「玄関前え別座す」と記されています。



「披露」の「道筋」図

←: 大澤村から城まで
↔: 城から「蝦夷共」の小屋まで